

# 創刊に寄せて

文学研究科長 山本 博史

平成16年4月1日に開設された「追手門学院大学地域支援心理研究センター」の専用施設が大学副門前に完成した。時期に合わせて、『地域支援心理研究センター紀要』を創刊する運びとなりましたことは、地域連携を志向するわれわれ研究者の大きな喜びです。

本学のセンターの名称にも含まれている地域支援という表現は、しばしば大学の社会的使命のひとつにあげられます。しかし、大学が高みに立ったような地域支援という表現に、私は少し違和感を覚えています。「地域」を「知域」にしなければならないという提言を耳にしたことがあります。私もこれと同じ考えをもっております。大学が高みに立つような地域支援ではなく、「大学の知」と「地域の知」とが往来し、相互に補完し合い、相互に向上するような関係を「知域」として構築することが肝要ではないかと考えております。

文部科学省の「オープン・リサーチ・センター整備事業」に選定された本学のプロジェクト名は「心理学の地域貢献に関する研究―地域社会との連携による心理的問題についての解決および支援の方法の開発―」ですが、本学心理学専攻がこれまでに培ってきた知と、茨木市を中心とする地域がこれまでに培ってきた知とが往来し、「新しい知域」の創出に向けて、双方が真摯な仕方で連携・協働することを念願しております。

このたび創刊される『地域支援心理研究センター紀要』の役割は、「新しい知域」創出の礎石になるという意味で、極めて重要であると考えています。「新しい知域」の創出は、一朝一夕にはできませんが、センターの日常的な活動を重ねながら、また紀要の号数を重ねながら、漸近的にそこへと向かっていくことを大いに期待しております。

2005年3月